

OBインタビュー



足利工業大学名誉教授
沖 允 人
昭和32年(1957年)卒業

「60年前の頃のこと」

私が学んだのは、中村区枇杷島町の木造の「中村校舎」であった。冬の寒い日には大きな火鉢が教室に置かれていた。教室は安普請の木造であったが、食堂もあり学生たちは元気に勉強していた。その後、当時の理工学部長・小沢久之丞(機械工学科)先生の努力で、鉄筋コンクリート4階建て通称「小沢館」が建設され、やや大学らしくなった。当時の電気工学科の主任教授は鈴木光彦先生(無線工学)で、石橋新太郎先生(電子工学)、高坂釜三郎先生(送配電工学)、守田広海先生(発変電工学)、浅井先生(過渡現象)、中尾久徳先生(交流理論)、長縄廣司先生(電気実験)らの先生方であった。まだトランジスタが世に出ておらず、真空管の時代だった。

私は旧制名古屋専門学校(名城大学の前身)に最後の学生として入学、卒業後に電気工学科3年に編入学、1957年に卒業し名古屋大学電気工学科の赤尾保夫・研究室に教職員として就職した。赤尾先生は、名古屋大学電気科の第1回生だが、まだ助教であり、教授は全員東大出身者であった。名古屋大学に2年ほど勤め、東海電気工事(株)(現・㈱トーエネック)から外来講師として名古屋大学で照明工学の講義をしておられた村山社長に誘われ、東海電気工事(株)の発変電課に転職し、当時は外国であった沖縄のカテナ米軍基地の変電工事や、中部電力で初めて建設する27万ボ

トの超高圧変電所建設で働いた。

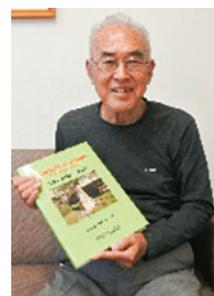
その頃の名城大学は総長の独断経営に端を発した学園紛争がやっと終焉し、学生も増加しつつあったが、教員が不足していた。理工学部のキャンパスは天白に移り、現在開学100周年記念アリーナ建設のために解体されたN館と称した4階建て校舎であった。石橋新太郎先生から請われ私は、名城大学で教鞭をとることになった。27歳で選任講師として採用され、中尾研究室に所属し、電気磁気、交流理論、照明工学の講義をした。国内留学制度により京都大学工学部大学院に国内留学し、建築環境工学の研究室で昼光照明工学を学び、博士号を取得した。しばらくして足利工業大学(現・足利大学)の博士課程創設に伴い、建築環境工学の講座を担当することになり、約30年間定年まで勤務し、名誉教授の称号を授かった。定年退職後しばらくして妻が肝臓ガンを患い、名古屋八事日赤で治療するため名古屋市に帰り、天白区植田の介護付き老人ホームに入居した。妻は世界したが私はそのまま住み続け、毎日名城大学を眺めている。

クラスメートは約50名が健在で、名古屋地方に20名ほどいるが、全員88歳以上と高齢で身体が不自由だったり、家庭の事情があったりでなかなか「最後のクラス会」が開けないでいる。

2026年の開学100周年の記念の会に出席できるまで、頑張っていきたいと思っている。思えば青春時代をすごした60年前の頃は、私の宝物である。



名古屋専門学校卒業写真帳より
中村校舎 1955年頃



著書：日本の日時計

2023年度 電気電子工学科 卒業研究中間発表会

日時：2023年8月31日(木)、9月1日(金)
場所：名城大学 天白キャンパス 研究実験棟Ⅲ
地下および2階

電気会は、名城大学理工学部電気電子工学科との共催により卒業研究中間発表会を実施しています。その目的は、以下の通りです。

- ① 学生に電気会への理解を深めていただくこと。
- ② 社会人(ビジネス)の立場から研究内容を評価し、学生に対して指導を行うこと。
- ③ 電気会が大学の研究内容に対し、より理解を深めること。

本年度は、2日間とも平日の2023年8月31日(木)と9月1日(金)に行われ電気会より2名審査員として参加しました。発表形式は例年同様にポスター形式でグループ別に平行して発表者からの説明と聴講者と発表者間での質疑応答が行われるという方式でした。発表は、学部4年生および修士2年生の学生により発表が行われ評価の高い発表者8名に対して表彰式が10月26日に学科内で開催され優秀発表者と電気会より電気会長賞として記念品を贈呈しました。

研究内容は、電力系統、太陽光発電、ロボット制御、可視光通信、レーザ応用、電波応用、機械学習、殺菌処理等々、電気電子技術を核として、その応用分野は極めて多岐に渡る幅広い内容であり、いずれも大変興味深いものでした。

来年の2月中旬ごろには、卒業研究発表会が予定されています。卒業研究を行うことで、企画力、問題解決力、文章力、プレゼンテーション力など、様々な仕事で役立つ総合的な力が養われると思いますが、9月という中間地点で一旦現状や進捗を纏め発表を行う事は、大変有意義な事であり、学生の皆さまには、さらに一生懸命取り組んでいただきたいと思います。

受賞者リスト

1. 光岡日菜子 (堀田研究室)
「脳MRI画像のモダリティ変換の研究」
2. 岡本奏大 (太田研究室)
「鉄フタロシアニン/酸化グラフェン触媒を用いた固体高分子形燃料電池セルの作製と発電評価」
3. 柴田萌菜美 (益田研究室)
「需要家の偏在がアグリゲータ需給計画・運用に与える影響の評価」
4. 藤掛大貴 (内田研究室)
「次世代全固体Liイオン電池に向けたGe/LiAlGePO複合膜負極の作製」
5. 山本航大 (伊藤研究室)
「がん細胞の選択的不活性化に向けた大気圧ラジカル源のヒドロキシラジカルの生成能力の向上」
6. 山本連太郎 (熊谷研究室)
「ガス透過性膜を用いた至近距離プラズマ照射による細胞成長促進灌流培養デバイスの開発」
7. 伊藤紗月 (村本村上研究室)
「熱と水分によって劣化した米油から作製したエステル油の絶縁破壊特性」
8. 河原朋哉 (都竹研究室)
「電子基準点データを用いたスロースリップの検出」

